館 物 語

秋 田 耕 司

戦後の宇仁館	昭和初期の宇仁館	大正期の宇仁館	明治後期の宇仁館	明治中期の宇仁館	旅館としての宇仁館	御師としての宇仁館	1. 宇仁館本店	旅館チェーン 写仁館』	宇仁館関連旅館	明治期の旅館概況	 	明治期の旅館概況	西田家について	字仁館』の読み方	土器調製所としての 写仁館』	まえがき
3 9	3 7	3 2	27	25	18	$\frac{1}{7}$		15	1 3	1 1	1 0	9	5	4	3	1

あとがき	年 表	宇仁館旅館の終焉	参考2.(株)志勢共同魚商会	参考1. 伊勢朝報社	10. 高千穂館本店と支店	9. 宇仁館別荘 宮崎文庫	8. 宇仁館別館 千秋楼	7. 宇仁館別館 大橋館と対泉閣	6. 宇仁館別館 三日市旅館	5. 宇仁館別館 菊屋	4. 宇仁館別館 橘屋	3. 宇仁館別館 藤屋	2. 宇仁館別館 神風館
7	73	7 2	7 1	7 0	6	65	63	59	5 7	5 4	53	5	4

宇

まえがき



思う。 めか、それともその後、外観的に大きな変化が小中学生になるまでな かったのか、 盤幼稚園の年長時に自転車通園していて、この辺りは通園路であったた 入口であるが、私はこの山田駅前通りをやり過ごした辺りにあった常 上の写真は昭和30年頃の山田(現、伊勢市)駅前の外宮参道の正面 山田駅前の旅館群のことは比較的よく記憶しているように

看板が店先に掲げられていたのが印象的だったように記憶している。 館」(写真右側の3階建て建物)は駅の真正面にあって、宇仁館食堂の も思うけれども、高千穂館や佐伯館などが記憶にあり、特に 軒並み3階建ての旅館が立ち並んでいたということではなかったように この辺りは戦災で焼失したと思われるので、旅館群は戦前のように 宇仁

き札 (飯田良樹氏蔵)を見ていただくと分かるように、古くは チ」と呼んでいたようである。 もそう呼んでいて、全く違和感をもったことがなかったけれど、右の引 子供の頃から、 宇仁館」をウニカンと読んできたし、周りの大人たち ウニタ

といった感じであった。しかし、近世の歴史を調べてみると、この宇仁館 この頃の 宇仁館」は、規模はある程度大きかったが、旅館群の 軒

が権勢を誇った時代があったことが偲ばれる。しかし、その歴史を明確に記録したものがないため、 関して、分かっている範囲で、憶測も含め記述してみたい 宇仁館」の推移に

た伊勢河崎商人館 郷土史研究家 訳なく思っております。また、掲載の写真は主に、 参考文献は文中に記載していますが、写真を含め入手先を失念してしまったものもあり、記載しないことを真に申し 飯田良樹氏所蔵品を掲載させていただいております。また、古い電話帳をコピー 西城事務局長にもご協力いただき、各位には誠に感謝しております。 山田修司氏のデログいにしえの伊勢」より、 版画等は津市在住の - させていただきまし

表記している。 なお、それぞれの年号は明治10年は明10、大正は大10、昭和は昭10と記載し、その年号の前の数字は西暦を

神奈川県平塚市真田3・10・18

koji.akita@nifty.com

司



土器調製所としての 字仁館』 (伊勢国多気郡宇仁郷)

ニカン」と明記されている。内容を 伊勢で 宇仁館」と言えば、駅前にあった旅館を指すに違いないけれども、まずは、 してみると、明30 伊勢たより参宮案内」に掲載されている、 抜粋・現代文化すると次のようになる。 字仁館の由来」があり、字仁館のふりがなとして、 宇仁館」という言葉を伊勢で検索 ゥ

た。それ以後、大神は伊勢宇治に鎮座したが、采女忍比売は物忌職となって同郡の宇仁郷に住み、箕村の天毘良加ア ヒメが同郡大淀村 (現在の土器調製所のある多気郡明和町蓑村か?)にて供進の土器かわらけを作り、神嘗祭を行っ メノヒラカ山の土で土器を作り神宮に調進し続け、その子孫も同様に行ってきた。 垂仁天皇の時代、皇女倭姫が天照大神を伊勢国多気郡佐々牟江に鎮座された時、 伴の采女 忍比売 ウネメオシ

3

館裏には御器社があり、ここで奉安した後、神宮に調進する。古来、このような斎館は市中に数軒あったが、移転した り廃絶したりして、現在(明30)では宇仁館のみとなった。 神宮の三祭典の時、忌物を神宮正殿に納める壺型土器を、土器作人が長官に調進する場所を 宇仁館」という。同

子孫が御師 字仁館』という土器調製所と、 寮館 宇仁館』の関係を示すものは何も無いが、物忌職となった采女忍比売の 宇仁館太郎」となった可能性はあるのではないかと推測するがっ

字仁館』の読み方

まえがきに記載した通り、明治初年に創業したと思われる旅館としての宇仁館の引札(宣伝用ラベルと解釈している) **うにたち」と記載されているので、読み方はそうであったに違いない**

地図で宇仁館(一志久保町)と角屋(宮後町)のあった場所の地名を検索してみると、以下のような推移がある。

明02 度会明細図では、宮後丁上タチと下之久保並木

神苑会 外宮方面開苑地図では、大字宮後町(字)上館町と大字 一志久保 町 (学)並木

明 3 1 伊勢宇治山田全図では、宮後字上館町・字下 三と 一志久保町字上 一志・下の久保

明33 神都実測図では、宮後町と下之久保

り、かく名付けしなり。」とあるので、館をたち」と読むのが当然だったと思われ、宇仁館は 階の西洋館にして、云々」とあるので、明治中期には、宇仁館は いない。しかし、同誌は、さらに、 今は、両側に、数多の旅店を、建て並へ、宇仁館 (うにくあんとフリガナあり)は、三 と、短期間に変遷を重ねている。明30 伊勢たより参宮案内」には、 **うにかん」と読まれていたのではないか?と思われる。** 館タチ町は、上古、禰宜、神官の斎館ありしよ プにたち』と読んだに違

西田家について



支えた家族について調べてみた。 西田貞助・周吉」や宇仁館チェー

西田貞助 1849嘉永2~1913大02 64歳

新墓にある西田家の墓には、 貞助 近祖初代」と記述されているので、

能性がある。その後、 事に重要書類を取出すとの事蹟がある。 周吉の経歴の中に、 豊宮崎文 庫を収蔵して」とあるが、貞吉の時代に 住所は宮後 一志久保とあるが、実際にはその町名はないので、宮後町と 旅館宇仁館主と記述してある。1871明治04御師制度が廃止されて、 一志久保町の町境に所在していたものと思われる。また、宮崎文庫の火 「旅館」字仁館」を開業させた当時、彼は25歳前後だったと思われる。 昭9初版 伊勢度会人物誌」を参照してみると、生没年は前述通り。 豊宮崎文庫」は 字仁館別荘』として、長く使用 豊宮崎文庫」を取得していた可

5

されていく。

政治団体である等々、 平24版伊勢市史には、 あり、宇治山田町の政治にも大いに関与していたものと思われるが、 神都公同会は明31、 元町長の村井恒蔵、 山本伊兵衛、 一西田貞助』らによって結成された 町会議員ではなかった。

も熱心であったのではなかろうか。しかし、貞助時代の 膝館 宇仁館』に関する詳細事蹟は見つけられない。家族は、 明治34 私立宇治山田幼稚園発足直後、園主は西田貞助であり、彼の寄付金に依存していたともあるので、教育に

妻 ちか 1853嘉永06~1924大13 71歳、

次男 吉郎 1887明21 1歳、

長女 千代 1879明12~1906明38 26歳

西 田周吉 貞助長男 1873明06·11月·23日~1934昭09、62歳



山田市主催御遷宮奉祝神都博覧会誌』より転載した。

大辞典+Plus などを参照すると、以下の略歴が判る。 04三重県紳士録、昭04宇治山田市史、平24伊勢市史、デジタル版日本人名 前述の 伊勢度会人物誌」には、西田貞助の子供、周吉に関しての記述はないが、大

蔵して、(株)志勢共同魚商会を大05設立し社長となる。商工会議所会頭、神都瓦斯会社取締役、実業倶楽部幹事、 信用組合宇治山田庶民金庫理事長、ほか、明34宇治山田市会議員当選(28歳)、宇治山田市市会議長に大正09 周吉の大正4年頃の住所は本町181の2。宇仁館経営者、伊勢朝報社(明32新聞創刊)社長、豊宮崎文庫を収 市参事会員、三重県会議員、大12県会議員議長に就任、と偉大な経歴が残っている。

経営者であり、同時に県会議長、市会議長をつとめる地方政界の大立者」(北岡善之助 伊勢の博覧会男より)とも 平24伊勢市史には、 西田は昭05神都博覧会の開催を強く推進したが、宇仁館という市内随一の老舗旅館の

記載されているように、宇治山田市および三重県で実業界のみならず、政界でも華々しく活躍したことがわかる。 大04三重県紳士録には以下のように記載されている。 周吉の家族は、墓誌には以下が記載されている。

妻 ゆう (子)1878明11~昭16 64歳、

長女 美屋(子) 1901明34~大05 17歳、

三女?きみ(子) 1909明42~大05 22歳

次男 二郎1903明36 1歳、

三男 茂雄 1911明44 行年1歳

四女?紀子 1923大12 2歳

また、大04三重県紳士録には、このほかに、

次女 等子 明41生、

四男大 一大01~平17 91歳(独立の墓あり)

の記述がある。長男一雄は後述する。

西田米太郎 1875明08~1921大10 46歳

はないかと推測しているが? また、三日市大夫次郎家を宇仁館系列化するに当たって、家系の繋がりを強くするた とも考えるけれど、次男で、太郎」という名付けは疑問が残る。風説を聞いたことがあるようなこともあり、 代の兄弟の家柄などであるだろうことが想像できる。また、墓誌の生行年から年齢的に周吉の弟(貞助の次男)か? 米太郎の出自は判らないが、墓所が本家とは違った場所にあるので、分家、つまり次男以下の続柄、あるいは父親の

6

るけれども、入籍はなかった。宇仁館チェーン旅館の支店を任されるなど、周吉の片腕として運営を大いに補佐した。 めに三日市家に養子に入ったという話を聞いたことがあるが、墓所の状況から、両家の結びつきはあったとは推測され

西田 一雄 1896明29~1956昭31 60歳

より、戦後の成長期まで、宇仁館チェーン旅館を維持した。 周吉の長男で、長年、宇仁館チェーン旅館の一つ、八日市場の宇仁館別館千秋楼を運営してきた。周吉没(昭09)後

妻 ふさ 1896明29~1961昭36 65歳

西田正秀 1924大13~2004平16 80歳

8

一雄の長男で、 一雄の後継として千秋楼を運営したが、宇仁館の終焉を看取ったのではないだろうか?



(下)西田米太郎の墓が、西田分家?の墓所に向かい合って建立されていて、その間に三日市家の墓所が有る。





それぞれの旅館の場所を特定するために厄介なのは、引札などに記載された 外宮前」という言葉である。外宮前は、 一の鳥居前 の豊川町、 古市寄りの岡本町もあるし、北御門前の宮後町、 一志久保町もある。

明治30 伊勢たより 参宮案内」には、

館は、三階の西洋館にして、其他、角屋、北村屋、今橋屋等あり。外宮前は、 町は、 上古、 禰宜、 神官の斎館ありしより、 かく名付けしなり。 今は、 即 両側に、数多の旅店を、建て並へ、 此所なり。北に月夜見宮あり。

が、明40 三重県案内」には、外宮前旅館 いることから、その後の混乱をきたす原因となっている。 御門以西、 とあるので、 2,3旅舎(宇仁館、角屋神風館、等)が撤去され、宇仁館は明36頃には岡本町に再建を果たしてはいる 外宮前」との表記は、必ず、北御門前を指しているものと思われるが、神苑拡張のため、 山田ホテル 宇仁館の広告を掲載していて、岡本町が外宮前であるとして 明 3 5 外宮北

ただ、宇仁館は、北御門前の旅館として知られていたため、宣伝上もその表記を変えることは営業に差し障りがある ので、その表記を使い続けたのではないかとの推測しているが?

宮後町)、 のちに、 外宮神苑前」と表現も出てくるので、 外宮神苑前」は 一の鳥居前(豊川町・岩淵町・岡本町)と特定したい。 それらの特定が難しいが、本書では、 外宮前」は北御門前 (|志久保

明治期の旅館概況

御師に変わる 明04御師制度廃止は旅館業の自由化を意味している。それに伴い、 伊勢講社」が 発足するなど、 状況は大きく変遷した。 明治期の関連事項を年表で記載すると、 旧御師系旅館と町宿系の競争が始った。そこに

明05 天皇陛下両宮参拝(2回目) 宮崎文庫に宮崎郷学校開設

明06 大世古町 龍大夫邸にて博覧会開設

明09 旅籠屋取締規則の県令発布

明16 尾上町旅館十五楼が勅使斎館に定められる

明19 神苑会創設

明20 賓日館開館 皇大后御宿泊

明21 神苑開設のため、両宮付近の民家の撤去工事開始

明22 初回町会議員選挙

明23 太田小三郎等参宮鉄道株式会社創立

明26 崎屋、正丸屋、 霞園、(尾上町)⑤藤屋、⑥十文字屋、⑦松嶋館、 体数については不明であるが、宇治山田に13軒、 三重県下商工人名録」によると、参宮客の増大に対する旅館の数について、商人宿、木賃宿などを含めた全 (字治) ⑬すし久、 小俣村 (田丸)に1軒、森正、 朝熊岳に1軒、とうふや、 が掲載されている。 二見浦に2軒、角屋、 (古市)⑧油屋、⑨大安、⑩両口屋、⑪津の国屋、⑫麻吉、 (外宮前)①宇仁館、②角屋、③北村屋、(一志久保)④吸 清渚亭(後、二見館)、神社町に2軒、

公告した旅 人宿業者数は35を数えた。このうち、 〇〇太夫、 ○○神主の名で登録したものは17であった

明 2 7 神苑会より 既成神苑 (内宮宇治橋内と外宮 一の鳥居前)を神宮〈献納

明29 宮川電気株式会社創立

参宮鉄道が 田駅まで延伸 宮 川電気が市内 へ電力を供 **以給開始**

明32 伊勢朝報社 山 .田駅前藤屋の隣にビルがある)新 聞創刊。 大世古町拝 田墓地廃止認可、 移転完

明33 田駅前・外宮間の新道開通 五二会ホテル開業この頃、 山田駅前に 一斉に旅館群が建築されたのではないか

と想像 している。 藤屋も同様にその頃、 尾上町 から移転したと思わる。

明34 西田周吉 町会議員に初当選(28歳)

明35 外宮北御門以西の神苑工事着工 2, 3旅舎(宇仁館、 角屋神風 館 ŧ う 一つは今橋屋か?)が撤去

二見間開通

明36

明38 田駅前~ 本町開通 この頃と思われる写真にはすでに旅館群が形成されている

明39 内宮 (浦口)まで延伸開通

明40 内宮·二見間開通。 五二会館は大日本ホテル Ш 田支店となる

宇治山田市の資料によると、 旅館は85軒、 この座敷間数1, 収容人員6, 225人である。

明 4 1 伊勢新聞』(九月二日付)はこの期の遊郭について、 古市に22軒、 山 田に29軒、 神社に10軒の貸座敷業が

業していると報じている。

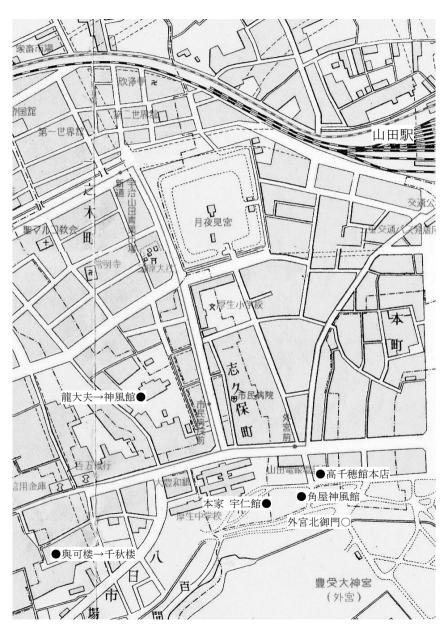
明43 御幸道路開通

明 4 4 参宮鉄道鳥羽まで延伸開通。 神苑会の土地建物 切を神宮に献納し解散

館関連旅館 田 現、 伊 勢市 駅前



宁仁館関連旅館 北御門周辺



旅館チェーン 宇仁館」

述する。 店が掲載されていて、宇仁館チェーンの最盛期を表していると思われる。 査しないと全容の解明は果たせないが、資料も乏しく、推測の域を超えない所も多々ある。現在、解っている範囲で記 宇仁館系列の旅館は数多く、その推移も激動しているために、それらを見極めるには山田地区の旅館を総合的に調 次の図は昭11 伊勢参宮之図」に記載されている 宇仁館 営業案内」であるが、この案内には次の通り、

宇仁館本店 山田駅前直右角3層楼(本町)

宇仁館食堂 本店階下(本町)

同別館藤屋 山田駅前右側3軒目近代的4層楼(本町)

同別館橘屋 同4軒目木造3層楼(本町)

同別館菊屋 同5軒目木造3層楼(本町)

同別荘宮崎文庫(岡本町)

同別館神風館

外宮神苑前(岡本町)

同別館三日市旅館 外宮前岩淵町

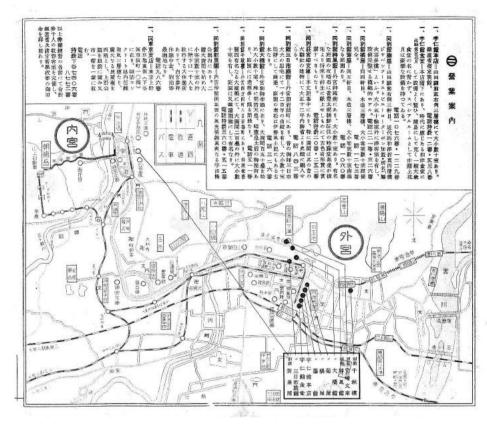
同別館大橋館 外宮前御幸通(豊川町?)

同別館千秋楼 (八日市場)

同別館対泉閣 内宮停留所正面(宇治今在家)

同東京支店 東京上野停車場東側

15



それぞれに名称が移り変わり、栄枯盛衰も あるため、次の店別に説明してい

- 宇仁館本店
- 2. 宇仁館別館 神風館
- 3 宇仁館別館 藤屋
- 宇仁館別館 橘屋
- 5 宇仁館別館 菊屋
- 6 宇仁館別館 宇仁館別館 大橋館と対泉閣 三日市旅館
- 宇仁館別館 千秋楼
- 宇仁館別荘 宮崎文庫
- 10 高千穂館本支店

宇仁館本店

御師としての 字仁館』

はないだろうか?また、 載から類推できるので、 識できる。 時代的な錯誤が見られるが、 僅かな資料しかないが、 内宮館町町家之図」には、布谷佐(左)大夫と宇仁館は 小さな御師邸を構えていたか、御師の代官や手代など勤めていた可能性がある。 內宮館町町家之図」、 字仁館太郎』という平師職の御師が、 宇治郷之図」の表記と 合家」したとあるので、その頃、 江戸期に 宇治下館町」に存在していたことが認 中田師職名帳」の記述には、 宇仁館たけ』の記 一家を構えたので 100年程度の

宇仁館』の大きさは、今も残る 丸岡宗大夫」邸程度の、参宮客が宿泊可能な御師邸を構え、 は最初、宇治に居住していたが、その後、江戸中期頃か?山田 | 志久保町(外宮北御門前)に移住し、その後の 字仁館たけ』と継承され、明治初年頃までは活動を継続していたものと考えている 地図の作成には時間を要するのでタイムラグがあるのは地図の方ではないかと考えているため、御師 字仁館芳之助』から **学仁館太郎**』 旅館

17

関連を列記してみると、以下のようになる。

1743寛保03 仁館大夫」の記載あり 山田師職名帳」 瑞垣 第百十二号神宮司庁) 一志久保 町に祓名 宇仁館大夫」、 師 職 名 宇

1797寛政09 伊勢路見取絵図 の記載なし 第二巻下 小俣・山田・宇治」(東京国立博物館)の下館町には 宇仁館大夫」

作成年不詳 宇治細見図」(伊勢市教育委員会)には 宇仁館大夫」の記載なし

1830文政13 内宮館町町家之図」(神宮文庫) の宇治館町に 布谷佐大夫 宇仁館合家 平師職家」の記載あ

1861文久01 大夫」の記載あり 宇治郷之図」(横地長重1849 1902作図とあるが、 12歳時の作図?)下 -館町に 宇仁館

-7元治慶応年間 石井源大夫」、師職名 山田師職銘監」 宇仁館芳之助」の記載あり 瑞垣 第百十二号神宮司庁) 一志久保 小町に祓: 銘 宇仁館太郎 大夫

明治の $\check{4}$ 御師制度廃止 旅館業の自由化を意味し、 旧御師系旅館と町宿系の競争が始まる

伊勢講社の発足

(西田貞助

23歳)

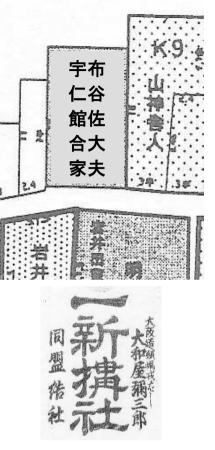
9明治12 平民 宇仁館たけの記載あり 15岩淵町)に、 岩淵町276番屋敷同居 祓名:宇仁館太

Ŏ 明治13 二新講社 大和屋弥三郎」 広 小路 外 //宮北御 崩 前 うに館太郎の案内あ

旅館とし 字 / 住館

名跡を譲渡した者も多くいたと思われる。このような状況の中で、 種々とすることになる。三日市大夫次郎や龍大夫のように旅館として再出発した御師もいたが、町宿系旅館にその しかし、1871明治04御師制度が廃止されたことにより、それまでの特権を維持してきた御師達はその行く末を 字仁館たけ』より 宇仁館たけ 岩淵町同居」の記述から推測するが?従って、 字仁館太郎』の名跡を明治4年前後に買収し、 1880明治13 町宿系旅館を営んでいたと思われる **膝**館 宇仁館』を誕生させたのではないだろうか 「新講社」の 宏 小路 西田貞助』が

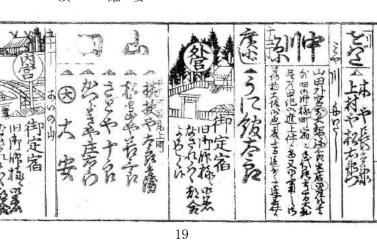
ている。 郎」の案内は、 西田貞助の **旅**館 字仁館太郎』あったと推測している。ちなみに、 広小路」は北御門前を指すと考え

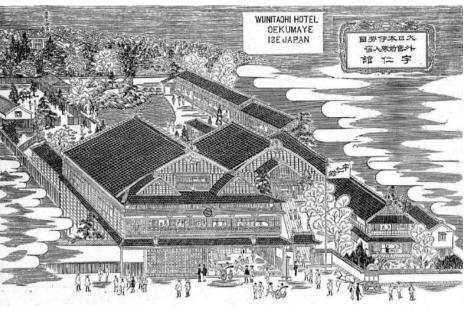


きました。 認できなかったが、皇學館大学文学部非常勤講師 員会 平 (資料) 「「新講社」帳は、津市在住郷土史研究家 $\widehat{\mathbb{E}}$ 成14年発行 内宮館町町家之図」御師廃絶130年記念シンポジュー 伊勢の町と御師』 伊勢参宮を支えた力-飯田良樹様より資料ご提供、 谷戸佑紀様にご指導を、 0 字は潰れて確 ム実行委 頂

を活るか

1000





特定してみる。

旅館の 引札などの資料がほとんどないことから、それほど大きくない と 一志久保町の境にあったということだと推測されるが、参宮 るけれども、 らの推移をみてみる。 裏参道である北御門前にあったと考えられる。 鉄道が開通する前のことであるので、宮川を経由して参詣する 田貞助は20歳前後だった。その頃の住所は宮後 前述の伊勢度会人物誌」から推測すると、 々の通行の便が良い、 一つであったのではないだろうか。そこで、その頃の場所を 宮後 一志久保という町名はない。 宮後町と 一志久保町の境にあった外宮 明 恐らく また、その頃に 治初年 一志久保とあ 宮後町 頃、 西

宇仁館本店について、

繰り返しにはなるが、

西田貞助の時代か

前 伊勢ジャパン」と記載されている。 が?これによると、左手奥に外宮正殿(丸印)が見える、道路 か?これによると、左手奥に外宮正殿(丸印)が見える、道路 かの版画(飯田氏提供)はその頃の姿を現しているのではない

一方、三重県立宇治山田中学校 校友会誌」 神都に於け

うな北 掲載の神苑拡張前の地図、 る交通線の変遷と地域性の推移』杉原静 の旅館は12~3軒あったとあるが、 御 前の推 測 配置図が考えられ、 外宮方面参考図 永禄寛永寛文年間改修図」に、それらを当てはめてみると次頁のよ 旅館の特定はないので、これにその他の情報を加味して、 昭和10年3月発行に、 明治20年頃までは北御門前はこんな感じだったのだろうと推測 明治20年頃北御門付近古今図」があ 神苑会史料」に り、北御 してい

ったことだけは明確である。 郷土史研究家の飯田氏からのご教授で、宇仁館については明31頃の伊勢新聞の商 「一志久保町3番屋敷」だったという。 町の境は 一点鎖線で示している。 番屋敷は番地との相関がないため現住所との比定は難しいが、 工登記公告に記載があり、 一志久保町にあ 住所は

1間か?そうすると、敷地面積は200 この推測配置図から、 宇仁館の大きさを推測してみると、奥行は約50m28間くらいで、 300坪1反、程度となる 間 口は15~20m8~

この値と前頁の版画と比較すると、 147 · 5m あり得ると考えられる 奥行120Hで敷地面積は1700坪強あり、それと比較すると、それほど大きくない旅館の大きさと 印象的には合致するように思う。 ちなみに、最大を誇る三日市大夫邸は、 間

この地図に置いて、宇仁館館は左端の旅館の位置にあった可能性もある。

氏は この版画以外にこの頃の宇仁館に関する情報はないが、 によると、 会軒の角屋と神苑会」で、伊勢法務局の旧土地台帳や和紙図を次ページのように場所を特定している。それ 同じく、北御門前にあった 角屋」に関しては、 前述の飯田

などの記述があるので、 明28、宮後町の 隣地(上館町36番地か?)の 角屋和惣治は明治6年に人長大夫邸 角屋」は隣地(上館町33番地か?)に広大な旅館を新築し、 (下)北御門前の推測配置図の場所にあったに違いない。 有瀧屋」を買収して、家屋を新築して (上館町 のち、 宮後町35番地)を取得 神風館」と称 ただ、次ページの版画(上)は 神風館」とした。(平24伊勢市史) 旅館業を開始 した。 (明34神都名家集)

北御門前の角にあり、参道に面している

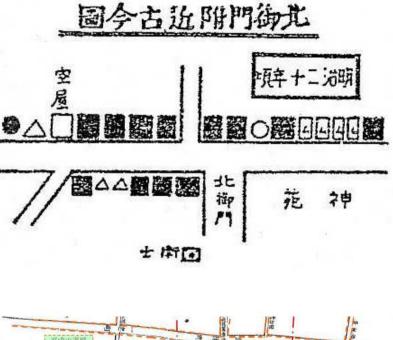
増築後の玄関は、外宮正殿を後ろに見ていて、

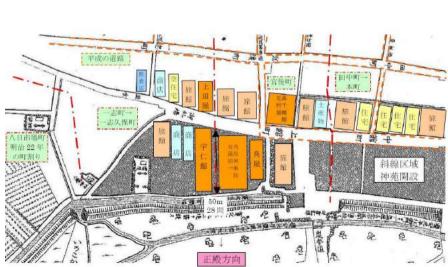
北向きに有る

ったと言及はしているが、 などの疑問があるけれども、 を考慮すると、 (下)北御門前の推測配置図を提示した。飯田氏の調査では、同区域の西側の 北向きの場所は上館町33番地しかなく、 残念ながら、 角屋」の位置としては、概ね、合致しているのではないかと考えられるため、、まずは 正確な位置までは言及がない 版画の方向とは 一致しない 一志久保に宇仁館はあ 口も狭いように感じる

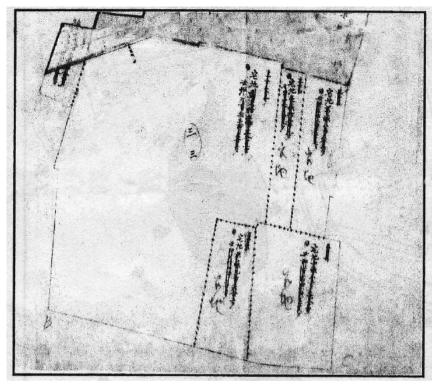
高千穂館本店や上田旅館については、多少の別資料もあり、所在地が特定できている。

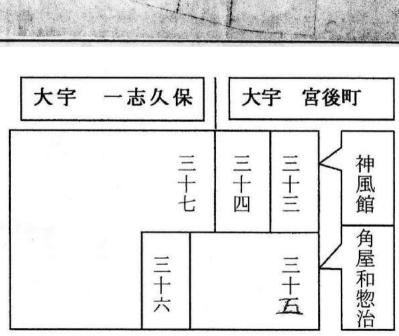
角屋神風館に関しては、宇仁館別館神風館支店の項で再述する。 右側斜線部分には旅館等がなかったのか、まだまだ疑問が残し、 議論の余地がある。





(上)北御門付近古今図 ■旅館 〇土産物屋 \triangle 一般商店 (下)北御門前の推測配置図





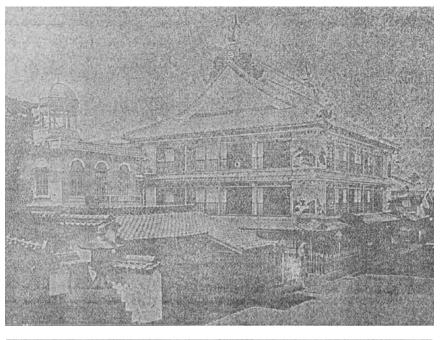
明治中期の宇仁館 この時期、明治中期の関連記事を列挙すると、

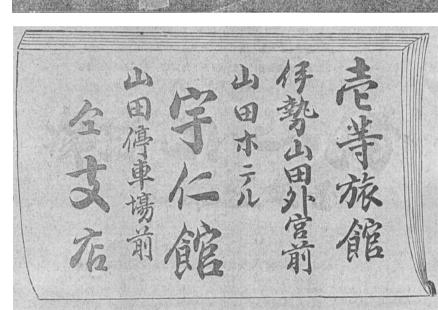
- 明 2 3 料理高有名楼として、與可楼、浅吉、吸霞園、すし久が紹介されているが、『字仁館』はなく、 なかったと推測される。その他、古市有名楼として、備前屋、杉本屋が記載されている。 三重県名所図会」旅籠屋として、油屋、藤屋、十文字屋、澤潟大夫、龍大夫、三日市大夫、福島三崎大夫、 それほど大きく
- 明26 安、角屋、藤屋、北村屋、十文字屋、松嶋館、両口屋、津の国屋が、料理屋としては與可楼、吸霞園、 麻吉、すし久、くめかん、がある。 三重県下商工人名録」旅館兼料理店 外宮前 字仁館』と記載されている。その他旅館としては、油屋、大 戸田屋、
- 明30 参宮鉄道が山田駅まで延伸 宮川電気が市内へ電力を供給開始

料理屋として、戸田屋、 伊勢たより参宮案内」 鶴屋、新町妓楼として、湊屋、吉野屋、料理店として東雲楼が紹介されている。 館町旅店として、 字仁館』、角屋、北村屋、今橋屋、花街として、津島屋、新川楼、

- 明30 する洋風の建物を新築。自家発電による電灯を点けた。 平24伊勢市史」経営者となった周吉は、参詣客の益々の増加を見越して、同年、隣地に客室70余を有
- この写真が、 鮮明だが、角地ではなく、通りに面した方向に玄関を持つ3層楼があり、左上に塔がある洋風の建物が見える。 次ページの写真は明36 ||志久保町にあった||宇仁館本店」の洋風建物が併設された時のものではないかと推測される。 関西参宮鉄道案内記」の宇仁館の広告のページに掲載されている写真である。大変不
- 明 3 1 伊勢新聞 れており、 貞助49歳、周吉25歳の頃に経営権の委譲があったと思われる。 商工登記公告のよると、宇仁館の住所は 一志久保町3番屋敷、代表者はすでに西田周吉に変更さ

(上) 明36 関西参宮鉄道案内記」の宇仁館広告 山田ホテル」と称している。駅前に支店あり





明治後期の宇仁館

明32 伊勢朝報社 (山田駅前藤屋の隣にビルがある)新聞創刊

明33 神苑内に編入される。 山田駅前・外宮間の新道(現、外宮参道)開通。外宮神苑拡張のため角屋神風館と宇仁館など数戸の邸地が (明34神都名家集)神苑会史料にも同年、立ち退き契約が締結され、明35には撤

去が完了したとある。五二会ホテル開業。

この頃、 ではないか?しかも、 山田駅前に一斉に旅館群が建築されたのではないかと想像しているので、宇仁館も支店を出店したの 駅前の角地を専有できたということは他に先駆けて、いち早く出店したとも思われる

が?、藤屋もこの頃、尾上町から移転したと思わる。

駅前からの順番は、宇仁館支店、神風館支店、 松嶋館 (尾上町)、 伊勢朝報社、藤屋

明34 西田周吉 町会議員に初当選

明34頃、建ち退きに備えるために、三層楼の宇仁館分店(岡本町)を開業したと思われる。

御師講社の旅館案内」には次のような記述がみられる。

山田外宮前 山田ホテル宇仁館、同神苑前 宇仁館分店、同ステーション前 宇仁館支店」

この中の、 示していると思われる。 町のことであり、同神苑前 外宮前」とは前述特定の通り、北御門前のことで、これまでの本店を指し、神苑前というのが岡本 同時期に駅前支店は営業を開始したものと思われる。 宇仁館分店は、岡本町に新築した新店ではないか?双方が両立していた過渡期を

明44 (と思われる) 疑問が残る。 伊勢案内図 別格信用旅館案内 神都十大旅館の内」でも同じ、 内容の広告があり、



テホ(第二) 全山田外宫? 全山田ステー (本店)ける 第三十 伊勢山田外宮前 館前の 館支店 長電話二。当 7.

28

御注意仕候)本支分店共電話架設アリーの事情物人力車夫等ハ支店ニテ便利ヨク

明35 外宮北御門以西の神苑工事着工 2,3旅舎(宇仁館、角屋神風館、もう 一つは今橋屋か?)が撤去 北御門前の宇仁館本店をこの頃、除却したものと思われるが、確定的な資料は見出していない。

明36 伊勢電気鉄道(市電)本町~二見間開通 関西参宮鉄道案内記」に宇仁館本店として広告ページが掲載さ れている。 駅前支店もあり、とあるので、この頃に山田駅前の支店が開業したと思われる。

明 3 7 岡本町に建設された宇仁館が焼失、のち朱壁の構造に建替え

市電が山田駅前~本町開通 この頃と思われる駅前の古写真にはすでに旅館群が形成されている

宇治山田市になる。

支店」の広告が掲載されており、 伊勢参宮案内記 神都の巻」には、 、本文で 新築落成 山田ホテル 一等旅館 外宮前 宇仁館本店 山田停車場前、 同

回再び、宏大な朱壁の構造に建替えられた。支店は停車場前の西洋館』、 字仁館(岡本町) もと参宮ホテルといって随分名のある三層楼であったが、 去37年春、 焼失し尽くされ、 今

資料でも、宇仁館は常に 由田ホテル」と称している という記述があるが、この 参宮ホテル」というのは誤記だと考えられる。前ページの広告を参照、あるいは他の

には 明らかに岡本町の本店であるのにも関わらず、 能性はあるか?角屋神風館も龍大夫邸に移転する際には旧建物の また、三層楼であったということから、移転を急いたためも有り、北御 新築落成」とあるので、焼失後、再建された建物の写真だと思われる。それは角地に立地しているため 外宮前」と称している。 一部をを移築している。 :門前の宇仁館本家の建物を移築した可 同書掲載の広告

 $\widehat{\mathbb{F}}$ 明 3 9 伊勢参宮案内記」 岡本町本店 (下)ステーション前 宇仁館支店 (同年頃か?)

宮 前 館 本 店



調御 理料御



明 4 0 参宮鉄道が国有化、長距離電話開通 この頃、三日市旅館を宇仁館系列に取り込んだか

明 4 3 御幸道路完成

駅前を中心に発展することとなった。その結果、筋向橋、北御門、岡本町、古市の道筋は衰退していった。 宮参道を通過して、 を経て、 参詣の便は、これまでの宮川の渡しから筋向橋、 一時的には岡本 町 古市を経由、その後は市電経由、 北御門、古市、 内宮という道筋から山田駅下車、 内宮へ至る道筋に変更され、 田

明44発行と言われる 伊勢案内図 別格信用旅館案内 神都十大旅館の内」には、次の記述が見られる。

外宮前 (本店) 宇仁館 長電20

ステーション前(第 1) 宇仁館支店 電 1 2

外宮神苑前 (第二) 宇仁館分店 電05

回線が開通しているので、明44頃までに、旅館案内に電話番号が記載されるようになった 電は電話番号を示しているが、伊勢で長距離電話が開通したのが明40で、翌年には120回線が、 大0 1には497

ここで 宮北御門以西の神苑工事着工 2,3旅舎 (宇仁館、角屋神風館など)が撤去、とあり、その頃には、北御門前の宇仁 は、三日市旅館は宇仁館チェーン旅館となっていたと思われるので、宇仁館分店の 館本店を除却し、 外宮前」外宮神苑前」というのは、どこなのかという疑問が、 宇仁館分店は三日市旅館のことなのかも知れない。 岡本町に新築したと思われるので、本店の 外宮前」は岡本町を指すと思われる。 再び、 生じる。 外宮神苑前」は豊川町や岩淵町を 神苑会史料によると、 また、この時期に 明 3 5

米太郎として使用されているので、そう理解するのが妥当ではなかろうかっ さらに、電05が電105の誤記だとすると、その番号は大01字治山田商工人名録では、字仁館支店 豊川 町 西 \blacksquare

大正期の宇仁館

大01 宇治山田商工人名録」によると、

宇仁館本店(岡本町) 西田周吉 電20長/360

宇仁館支店(本町) 西田米太郎 電12㎞

宇仁館支店(豊川町) 西田米太郎 電105

三日市大夫(岩淵町) 西田周吉 電326長

この豊川町の店の位置は岩淵町との町境であったため、豊川町と称したのか、実際に豊川町であったのか、確証する資 料は見つかってはいない。また、関連旅館を列挙すると以下のようになるけれども、まだ宇仁館系列とはなっていない。 備完成によって、南北に分断され、北側(岩淵町)を三日市大夫、南側を宇仁館支店(豊川町)としたものと思われる。 されるようになった。しかし、広大な三日市旅館は、敬神団体であった神苑会の事業の 系旅館、三日市旅館として三日市家によって営業されていたが、後年、その経営を周吉が援助し、宇仁館系列に列挙 また、駅前の支店は米太郎に任されていてる。三日市大夫次郎邸は、龍大夫と同様に、山田最大の規模を誇る、御師 大01までには確実に、北御門前の本家は除却され、岡本町店は本店となった。 一つである明43の御幸道路整

大橋館(今在家) 多気道郎 電338

松島館 (支店) (本町) 松島庄太郎 電29長 (大02 全国商工案内」には、駅前に支店 電420)

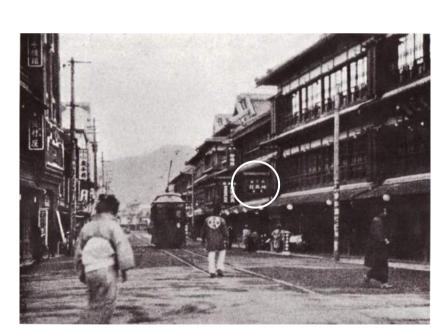
高千穂館支店(本町) 西村かつ 電15長、高千穂館本店 (宮後町) 西村かつ 151

神風館支店(本町) 大泉忠生 電538、神風館本店(大世古町) 龍 いを 長70

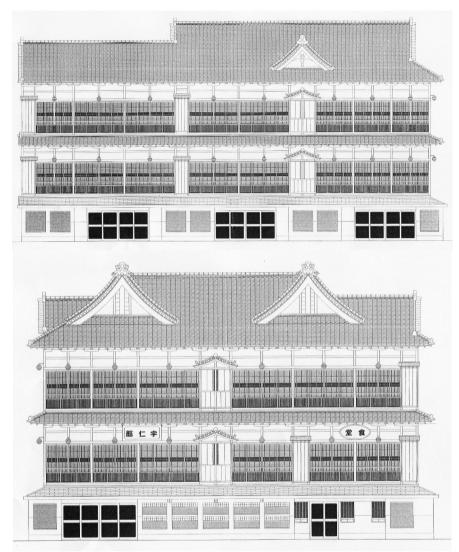
與可楼 (八日市場町) 中岡助三郎 電21長

(上)駅前宇仁館支店が三層楼に改築 (下)神風館支店の建物がなくなり看板が掲げられた





一級建築士 濱口オサミ氏作図 (上)側面 (下)駅前正面



大02 西田貞助没64歳、周吉40歳 全国商工案内」には北村屋甚蔵の名があるが?

大 0 3 宇治山田商工人名録」には、次の記載がある。

宇仁館本店(岡本町) 伊勢山田旅館 (資) 電20長/360

宇仁館支店(本町) 伊勢山田旅館(資) 西田米太郎 電12長

宇仁館分店(豊川町) 伊勢山田旅館 (資) 電105

三日市大夫(岩淵町) 伊勢山田旅館 (資) 電326長

神風館本店(大世古町) 伊勢山田旅館 (資) 電70長

神風館支店(本町) 伊勢山田旅館(資) 大泉忠生 電538

高千穂館本店(宮後町) 伊勢山田旅館(資) 電151

高千穂館支店(本町)伊勢山田旅館(資) 西村かつ 電150長

35

とあり、この時期に経営を伊勢山田旅館合資会社とし、また、神風館本支店を龍いを・大泉忠生から、また、高 千穂館本支店を西村かつから買収して傘下に加えたと思われる。駅前宇仁館支店が三層楼になった時、神風館

支店は宇仁館支店が同じ建物に吸収された可能性がある。

松島館支店(本町) 松島庄太郎 電29長

大橋館(今在家) 多気道郎 電338

與可楼(八日市場町) 中岡助三郎 電21長

大 0 5 宇仁館別荘宮崎文庫となる。 周吉は豊宮崎文庫を収蔵して(株)志勢共同魚商会を大正5年設立し社長となる。この豊宮崎文庫はのち

大正後期には山田駅前の旅館街は外宮の門前よりも駅前に多く店舗を構えている。大正に入って著しく発展し、二

える。(平24伊勢市史) 建ては宇仁館、松嶋館、大宮館、 階建てが主であったものが、大正半ば以降、三階建てに改築されて行った。当初からのものも含めて大正末までの三階 伊勢屋、などを数え、当時のキャッチフレーズに従えば、大廈高楼が軒を並べた、とい

大11 三重県商工案内本編+付録」のよると、

千秋楼 (八日市場) 西田 |雄電360/515

宇仁館 (本店)(岡本町)西田周吉 電20長/252

高千穂館(支店)(本町)西田周吉 電105長

三日市太夫次郎 (岩淵町) 西田周吉 電326

神風館 (岩淵町) 西田周吉 電511

大橋館(今在家) 多気道郎 電338長/920

記載はないが、別資料から以下はあったと推測した。

高千穂館本店 (外宮前=宮後町) 電151神風館支店 (本町)伊勢山田旅館 (資) 電538

宇仁館支店(本町)西田周吉 電12長

とあるが、 西田周吉は伊勢山田旅館(資)の代表者として記載されたものでされたものであろう。

この頃に、大世古町の神風館本店は廃業し、旅館三日市大夫の南側の宇仁館分店は 神風館 (岩淵町)』と改称した。

豊川町は現在と同様に岩淵町に編入されたと思われる。

が管理した。伊勢山田旅館(資)とは別な個人管理かも知れない。 また、八日市場の有名料理店、與可楼を中岡助三郎より買収し、 千秋センシュウ楼と改称し、 周吉の長男 西 田

が属する政友本党系が少数派となってからも引き続き議長の任に留まった。そこで公正会は西田議長へ不信任を突き 弾したのである。(平24伊勢市史)とあり、西田周吉は公私ともに多忙を極めていたと思われる。 通り中村屋旅館南方区域)が、実際の売買価格の8倍の評価額で西田の親族に担保として差し出されている点を糾 つける意味で大14年度の商品陳列所分所設置予算を否決したのであった。公正会は分所建設予定敷地(山田駅前 大12、西田周吉は県会議議長に就任した。大13に護憲三派系議員が結成した公正会が県会多数派となり、自身

昭和初期の宇仁館

~昭04までに作成されたと考えられる 宇治山田市街図」では、 以下の記載がある。

宇仁館(本店)(岡本町) 西田周吉 電 20長/252

宇仁館支店(本町)伊勢山田旅館(資) 電12長

神風館 (本店?) (岩淵町) 西田周吉 電511

神風館支店(本町) (伊勢山田旅館) 電538

三日市大夫(岩淵町) 西田周吉 電326

高千穂館本店(宮後町)(伊勢山田旅館)電151

高千穂館 (支店) (本町) 西田周吉 電105長

宇仁館別荘(岡本町) 西田周吉 電843

神風館支店は本町にあると記載されているが、既に、 別館)藤屋(本町) 西田周吉 電221 宇仁館の建物に吸収されていると思われるので、

宇仁館の建物

藤屋については後述する。 内にあったのかも知れないし、神風館(本店?)(岩淵町)の取次ぎの電話番号であったかも知れない。

昭02 商工名録」には、関連旅館は以下の2つしか記載がない。

大橋館(今在家町) 大橋館末昌 電425

松嶋館(本町) 奥野さい 電 2 9

昭 0 6 宇治山田商工案内」によると、

宇仁館本店 (岡本町)伊勢山田旅館 (株) 電20長/252

宇仁館支店 (本町)伊勢山田旅館(株) 電12長/356/538

宇仁館食堂(本町) 電1076・・・記載はないが前後からあったはず。

宇仁館別館大橋館(豊川町)電511・・・記載はないが前後からあったはず。

三日市大夫(岩淵町)伊勢山田旅館(株) 電326

宇仁館別荘(岡本町) 電843・・・記載はないが前後からあったはず。

(宇仁館別館)藤屋(本町)伊勢山田旅館(株) 電221/1246

千秋楼 (八日市場)伊勢山田旅館 (株) 電360/515

神風館支店(本町)の名称が無くなり、 字仁館食堂」が併設された。また、 高千穂館本・支店は昭05に北村甚平

(元の経営者?)に譲渡されている。

昭 0 9 西田周吉没、宇仁館チェーン店旅館は長男 一雄に継承された

昭 1 1 伊勢参宮之図」宇仁館案内図によると、

宇仁館本店(本町) 電12特長/538特長

宇仁館食堂(本町) 電1076/1229

宇仁館別館大橋館 (岩淵町) 電511

三日市大夫(岩淵町) 電326

宇仁館別館神風館 (外宮前 =岡本町)電20特長/252特長

宇仁館別荘 西田一雄(岡本町)電843

宇仁館別館藤屋(本町) 電221

宇仁館別館菊屋(本町) 電1060

宇仁館別館対岳閣(内宮前) 宇仁館別館橘屋(本町) 電1273

電986

千秋楼 (八日市場) 電360/515

駅前の支店が本店に、外宮前=岡本町の本店が神風館に改称された。また、宇仁館別館大橋館 (岩淵町)とあるが、

39

三日市大夫(岩淵町)があるので、豊川町の町境が変わったか?

また、新規に、以前よりあった吉野館を八木亥太郎より買収し宇仁館別館菊屋を、 辻井幸次郎より買収した大宮館

を宇仁館別館橘屋に、また、内宮前に、宇仁館別館対岳閣を開業している。

昭11以後、戦前の記録は現在のところ、 見出すことはできなかった。

戦後

昭 2 5 三重県電話番号簿」によると、

されていて、西田 宇仁館本店(豊川町28)の豊川町は誤記か?あるいは、戦果を受け駅前宇仁館は焼失したので、宇仁館別館大橋館 (岩淵町=豊川町の誤記?)を一時的に本店としたか?岡本町の旧本店は昭29には記載がないので、その頃に売却 |雄(岡本町332)は宇仁館別荘を示すと考える

宇仁館本店(豊川町28)電12特長/20特長

千秋楼 (八日市場町) 電360/515

西田一雄(岡本町332) 電843

(本町186)

電252・・・・食堂か

三重県電話番号簿」によると、

宇仁館本店(本町) 電2121

西田一雄(本町) 電2020/2843

宇仁館伊勢会館食堂グリル (岩淵)

千秋楼(八日市場町) 電4820

昭 3 1 西田一雄没、長男 正秀が継承したと思われる

昭 3 2 伊勢商工要覧」では、

宇仁館本店(本町)西田 雄 電2121

伊勢山田旅館組合 (株) 西田正秀 電4820

えたと考えられる。 「伊勢商工名鑑」では、 終に、宇仁館の名称や西 田姓の記載が皆無となり、 栄華を誇った宇仁館も終焉を迎

宇仁館別館神風館

神風館については、その成り立ちから紐解いていかねばならない。

明 3 4 神都名家集」によると、大世古町の龍大夫について、以下の記事がある。

に帰り、自ら家政を理す。家固より富豪にして門閥、最も高きを以て、旧檀家を有すること最も多し。故に参詣 所として旧檀家の輩を宿泊せしむるを職とせし、云々。 大夫嗣子無きにより、明治5年に生まれてすぐ、2歳にして龍家の養嗣子となり、該家を継承す。幼きより学に遊 龍 重光氏は明治4年、春木家に生まれる。同家は師職の中の名門たりしが、同師職中の門閥家を以て、聞ゆる龍 び、明治24年東京に到りて、(中略)、この間は龍家の内政は実父に託せしも家政上の外遊を許さざると以て、家

3~34頃、 神宮参拝をし、龍大夫邸に宿泊した。その後、家政は継続していたが、時勢に感じる所があって、後述のように とあり、明04御師廃止以降は、 同旅館を大泉忠生に売却した。 旅館 龍大夫」として、龍 重光によって経営されていた。明13明治天皇が3回目の 一方、同誌から、

41

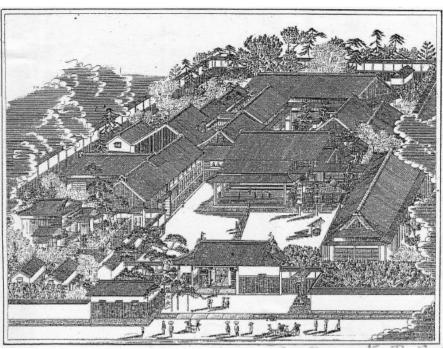
業とせり。明治6年外宮前なる人長大夫の邸地を買収し、且つ、同町魚屋の建造物をも併せて新に家屋を建築し 数戸の邸地を神苑内に編入せらるる事になるや大世古町龍大夫の邸宅を買収し、之と共に建造物の全部を挙げ 断絶せんとするに際して之を継がしめたり。 明治27年隣地有瀧屋の邸を買収して、 更に高い壮なる家屋を新築し 四国地方へ出張せしが、 同年該邸に移りてその業を拡張す。当時、 大泉忠生氏は万延元年12月下中之郷に生れ、幼名を弥三郎と称す。父は和惣治。同町に於て、旅舎業を以て生 同時にその規模を拡張せり。明治33年外宮神苑地拡張の議起り、 (中略)、和惣治氏即ち忠生氏をして、その家を襲はしめ、次男熊三氏をして松村家の将に 師職名を受けて大泉忠大夫と称し、大麻及び暦本頒布としてえ毎年、 同館及び宇仁館始め外

幾千の旅客をして不便の感ぜしめざるが如き、実に全国、 て、これに移転し、更に、輪喚の美を極め、善を尽して宏壮なる新築成れり。 邸地2千有余歩、客室280に及び、 濶にして且つ設備全きを得るやを知るに足るべし。 月皇太后殿下御参拝の折も同邸に入御あり。これ実に同館の名誉たるは言を俟たず。これを以て見るも如奈に広 濶なる大広間の如きは最も有名なるのにて、往年畏くも皇上陛下神宮参拝の折、行在所に充てさられ、20年3 (後略) 稀に見る所の大旅館なり。 全面に新旧二門あり。 その広

との記載がある。

同様に、明35外宮北御門以西の神苑工事着工に伴い、移転を余儀なくされた。 大泉大夫名を継承した大泉忠生はその後、明27隣地(上館町36番地か?)の 有瀧屋」を買収して、家屋を新築し た。宇仁館と同様に、 つまり、大泉忠生の父、角屋和惣治は明06に人長大夫邸(上館町のち、宮後町35番地)を取得し、旅館業を開始し 神風館」としたという。 神風館」と称し、さらに、平24 伊勢市史」によると、明28隣地(上館町33番地か?)に広大な旅館を新築し、 町宿系の旅館であり、 (飯田良樹氏 を軒の角屋と神苑会」参照)。 機に乗じて御師株や御師邸を買収して、 しかし、隆盛を極めていたに違いないが、宇仁館 外宮北御門前で開業していた。

余談ではあるが、その時、 北御門前の神風館の玄関(←部分)を移築したものと思われる。 (平面図等参照



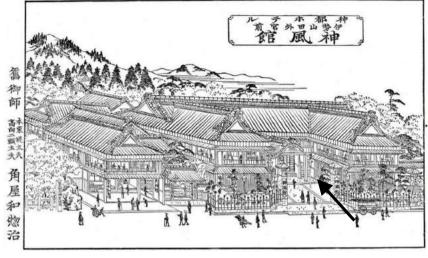




(上) 旧龍大夫邸 (現、大豊和紙工業㈱) (下) 邸内にある明治天皇行在所遺址

(明13)

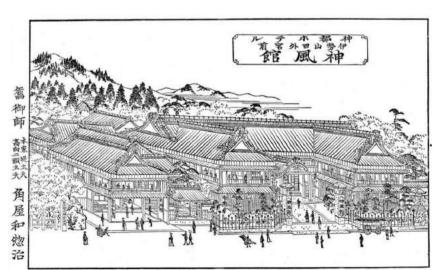
(上)増築前の 角屋」(下)増築後の 神風館」左端の建物は上の建物と同じ





(上)移築前の神風館 (下右)元龍大夫邸平面図(下左)同明33平面図 -部分が移築された部分





そして、宇仁館が山田駅前に支店を出店した直後頃に、角屋神風館は宇仁館の駅寄り隣に したものと思われる。★印は角屋神風館のシンボルマークだった。 ★神風館支店」を出店

支店」と掲載されていることより、宇仁館支店と同時期に支店を出店したものと思われる。各旅館の駅前支店の記述 明 3 6 と推定できる。 は同誌から見出すことができる。次ページの写真は、明38 関西参宮鉄道案内記」には、宇仁館の広告と同様に、 市電が山田駅前~ 伊勢外宮大世古町 本町間を開通させているので、 ★神風館 山田停車場前 神風館 その頃

が疑問ではあるが?二人には血縁関係があったのかも知れない? なっている。神風館は 大01 宇治山田商工人名録」には、この頃の神風館の経営者は、大世古町の本店は 重光」から龍大夫邸を買収したとしているのに、 龍 いを」が経営者として名を連ねているの 龍 いを」、支店は 大泉忠生」と

大03 せることはしなかったようだ。 高千穂館本・支店をも包含し、宇仁館旅館の系列化を開始したものと思われる。ただし、 山田旅館(資) 宇治山田商工人名録」には、 大泉忠生 電538、 との記述が見られ、西田周吉はこの時期に経営を伊勢山田旅館合資会社とし、 神風館本店(大世古町) 伊勢山田旅館(資)電70長、神風館支店(本町) 旧経営者を直ちに辞めさ

龍大夫邸を神都製紙が買収 この頃に 旅館 神風館本店」は廃業した。

偉大な三層楼となったのはこの頃ではないか? 大正中期には、山田駅前の旅館群の高層化が始まったものと思われる。宇仁館支店も絵葉書にあるように、豪華で

は、明43 御幸道路竣工で分断された三日市大夫次郎邸の南側半分の旅館名称に当てられた。 支店(本町)伊勢山田旅館(資) 三重県商工案内本編+付録」神風館(岩淵町)西田周吉 電538、の記録があるので、大世古町 電511、同誌に記載はないが別資料から、 旧龍大夫の神風館本店は廃業し、その名前

(上) 宇仁館支店の右側後方に神風館支店、松嶋館が続く 左側は油屋支店

(下) 山田駅歩方向に見た神風館支店 ★印の看板が見える 明 4 2 第57回御遷宮奉祝記念?





風館支店のエリアがあったものか、岩淵町に新設・ 駅前の神風館支店は、絵葉書から、三層楼宇仁館支店に吸収され、 宿泊客はまだまだその名前を頼ったものと思われる。実際に、 した神風館への取次ぎだけだったのかは不明である。 看板が出された。全国規模の檀家がいた 三層楼宇仁館支店の中に、

なお、

龍家を継承しているので、

か? 大11~昭04までに作成されたと考えられる 宇治山 西田周吉 電511 神風館支店(本町) 電538 田市街図」では、 の記録がある。 神風館(本店?)(岩淵町) (三日市旅 館北

昭 0 6 町の神 ・風館は大橋館に改称された。 宇治山田商工案内」記載はないが前後からあったはずの、宇仁館別館大橋館 電511、があり、 この頃に豊川

風館とした。この頃に宇仁館系列は最大規模となった。これ以後、 かったが、神風館の名前は戦後には見出だせない。 伊勢参宮之図宇仁館案内図」によると、 駅前 の支店を宇仁館 戦前の記録は現在のところ、 本店とし、 畄 本 町 \mathcal{O} 旧 本店を宇仁 見出すことはできな 館 别 館

48

(関連年表)

明06 角屋和惣治は人長大夫邸 (上館町のち、宮後町35番地)を取得し、旅館業を開始

明 1 3 明治天皇が神宮参拝 (3回目)をし、 龍大夫邸に宿泊した(行在所写真参照

明 2 7 角屋は隣地(上館町36番地か?)の 明治天皇は明02 伊勢路で(初回)、 有瀧屋」を買収して、家屋を新築して 明05 海路で(2回目)神宮参拝をした。(二軒茶屋に記念碑あり) 神風館」と称した。

明28 宮後町の 角屋」は隣地(上館町33番地か?)に広大な旅館を新築し、 神風館」とした

明30 参宮鉄道が山田駅まで延伸 宮川電気が市内へ電力を供給開始

34頃 大世古町の龍大夫邸を龍 重光から買収し、新たな 神風館」として再建した。

明35 外宮北御門以西の神苑工事着工 2,3旅舎(宇仁館、角屋神風館、等)が撤去。

明 3 8 市電が山田駅前~本町間を開通

明 4 3 御幸道路竣工

大01 宇治山田商工人名録」神風館支店(本町) 大泉忠生 電538、神風館本店 (大世古 町 龍 いを 長70

大03 宇治山田商工人名録」神風館本店(大世古町) 伊勢山田旅館(資)電70長

神風館支店(本町) 伊勢山田旅館(資) 大泉忠生 電538

大 1 1 三重県商工案内本編+付録」神風館 (岩淵 町) 西田周吉 電511

はないが、 別資料から、 神風館支店(本町)伊勢山田旅館(資) 電538

大11 ~昭04 宇治山田市街図」神風館(本店?)(岩淵町) 西田周吉 電51 $\bar{1}$ 神風館支店 (本町) 電538

昭 0 6 宇治山 田商工案内」宇仁館本店(岡本町)伊勢山田旅館(株)電20長/252

宇仁館別館大橋館 電511・・・記載はないが前後からあったはず。

伊勢参宮之図宇仁館案内図」宇仁館本店(本町) 電12特長/538特長、 宇仁館別館大橋 館 (岩淵 町

昭 1

電511 宇仁館別館神風館 (外宮前 =岡本町)電20特長/252特長

宇仁館別館 藤屋 完 弥次喜多楼

3

仁館、 であり、それを宇仁館が買収したものだと思われるが、詳細は不明である。藤屋は、 載がある程度であまり情報はない。この藤屋は古市の古楼で東海道膝栗毛に弥次喜多が泊まったと言われる 藤屋」 藤屋は明40には尾上町にあった記録はあるが、それ以後は大08 参宮案内」に駅前に 藤屋(弥次喜多楼)」との記 松嶋館、西田周吉が創業した伊勢朝報社の次にあった。昭和初期に宇仁館別館となったと思われる。 駅前から外宮方面に向けて、宇

藤屋は、十返舎 一九の東海道膝栗毛で、弥次さん喜多さんが泊まったと書き記された、江戸時代よりの老舗

旅籠であった。古市尾上町62

文久元 藤屋利兵衛 主人

明30 参宮鉄道が山田駅まで延伸し、明33頃から駅前には旅館群が建設され始めたと考えられるので、宇仁館が 支店を出店した頃に尾上町の店を畳んで、 山田駅前に進出したように考えている。

明36、藤屋利七 主人

明40 冨澤利七(改称)が経営

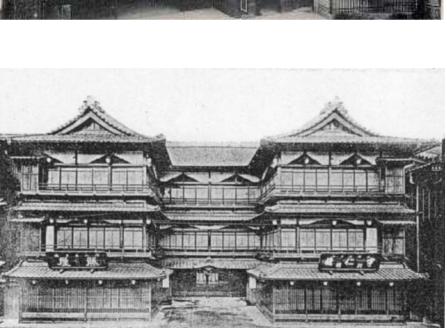
ものと思われる。 宇治山田市街図」藤屋 西田周吉 本町 電221 この頃までに経営権が以委譲され、宇仁館別館となった

昭10 電話番号簿 三重県 下巻」藤屋 旅館 本町 電221長/326 (別館 三日市旅館と兼用)

伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」同別館藤屋 電221/326

その後、終戦直前の空襲により灰燼に帰すまで、営業されたのではないだろうかっ

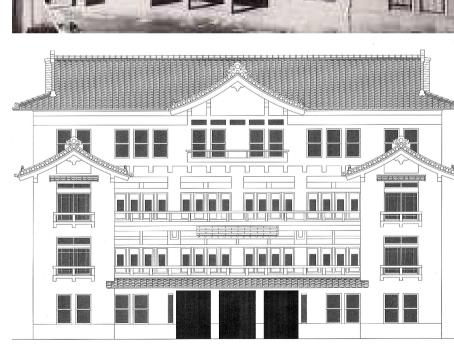
(上)藤屋と右隣が明32新聞創刊した伊勢朝報社 (下)多分、伊勢朝報社を吸収して大きく改築された藤屋





(上)コンクリ トのビルとなった藤屋 亍 一級建築士 濱口オサミ氏作図





4.宇仁館別館 橘屋(元、大宮館)

昭 0 6 昭初期 宇治山田商工案内」 宇治山田市街図」大宮館 大宮館 辻井幸吉 辻井幸次郎 本町 本町 電593 この頃、創業したと思わる。 電 5 9 3 代替わりがあったようだ。

昭 1 0 電話番号簿 三重県 下巻」橘屋 旅館 本(町)180 電1273

この時期以前に、本町の大宮館は宇仁館別館橘屋となった。

辻井幸吉 旅館 大世古362 電593・・・大世古町で 辻井旅館」を開業した。

昭和11 伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」同別館橘屋 電1273

その後、終戦直前の空襲により灰燼に帰すまで、営業されたのではないだろうか?





下写真の右端に、伊勢屋=吉野屋の門が見えるので、二つが隣り合っていとことがわかる。

5. 宇仁館別館 菊屋 (元、吉野屋・伊勢屋)

大03 宇治山田商工人名録」魚商兼旅館 八木清三郎

大 1 2 宇治山田市(地図)」佐伯館の駅より隣に吉野館、駅方向に小道を隔てて、 三重県商工案内」伊勢屋旅館、吉野屋、魚清旅館合名会社 本町、付表、八木儀 二郎 本町 大正初期に創業したものと思われ、当初は、伊勢屋旅館、吉野屋、魚清旅館は一体だったと考えられる。 魚清館、その前、 外宮参道を挟ん 電616長

宇治山田市街図」吉野館 八木玄太郎 電1060 だ向いに伊勢屋があり、3軒が併存していた。この時点までに、付属の門は取り壊ししたと思われる。

伊勢屋旅館 (魚清) 八木清三郎 電616、 勢州館 八木清三郎 電なし、

これまでに、 八木儀一郎から清三郎に代替わりがあった。

地図の配置では、佐伯館の隣に吉野館、その前、外宮参道を挟んだ向いに勢州館、 駅寄りにかなり近く大宮

館の隣に魚清館がある。伊勢屋は勢州館と変名している。

昭 0 6 宇治山田商工案内」 吉野館 八木玄太郎 電1060 伊勢屋 八木清三郎 電616

昭 1 0 電話番号簿 三重県 下巻」菊屋 電1060 本(町)178

となった。吉野館が宇仁館別館、菊屋となり、 八木清三郎 旅館 電616 本(町)175の記載が、この電話番

号簿でなくなるので、 八木清三郎は廃業したものと思われる。

伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」同別館菊屋 電1060

その後、 燼に帰したと思われる。 時期ははつきりは判らないが、写真から、宇仁館別館 菊屋は佐伯別館となったが、終戦直前の空襲により灰



6. 宇仁館別館 三日市旅館

伊勢度会人物誌によると、

を存して居る(後略) 4年師職廃止後、旅宿を営みしが、旧縁を以て来宿するもの多く、多くの師職の絶滅したる中に、猶、其の名と家と 三日市大夫次郎こと、三日市清隠 山田三方職の一、内宮権禰宜に補し、従四位上に至った。代々、師職にて関東奥羽に多くの檀所をもった。明治 別称 秀氏は、文政12~明治39 享年78歳 坂藤馬の長男で三日市左近の養

岩淵町の三日市大夫次郎は、伊勢で最大の御師であったが、明治4年の御師廃絶により旅館に転向した。 明41~43 宇仁館チェーン旅館になった可能性がある。明43 御幸道路竣工により邸地は分断され、 北側岩淵町は三日市旅館、 南側豊川町は時により、神風館、大橋館、宇仁館本店に改名している。

57

明23 三日市大夫次郎 本家

531~36 尊皇教会本部

明39~40 三日市大夫 三日市松心 三日市大夫次郎

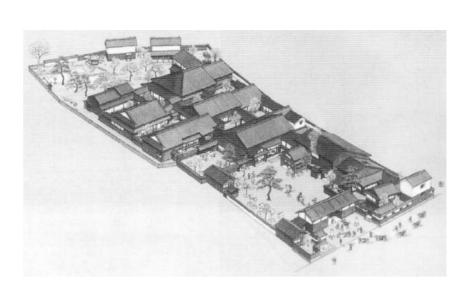
541~43 宇仁館チェーン旅館になった可能性がある

大01 宇治山田商工人名録」三日市大夫 御幸道路竣工 三日市大夫次郎邸が分断され、 西田周吉 岩淵町 北側を 電326長 明治末期には、西田周吉が経営。 三日市旅館」、 南側を 神風館」と称す。

大03 宇治山田商工人名録」三日市大夫 伊勢山田旅館(資) 岩淵町 電なし

昭和1 その後、終戦前は営業を続けたのかも知れないが、終戦直前の空襲により灰燼に帰したと思われる。 伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」宇仁館別館三日市旅館 電326 (別館 藤屋と兼用)

(下)昭13頃の三日市旅館 既に営業していないようだが?





宇仁館別館 大橋館 (元、神風館)と対泉閣

三日市大夫次郎邸の南側(豊川町)の場所であるが、名称が種々変化して判り難い。

明44? 別格信用 旅館案内 神都十大旅館の内」大橋館 宇治橋際前 電338

大 0 1 宇治山田商工人名録」宇仁館支店 西田米太郎 豊川町 電105

この宇仁館支店が、三日市大夫次郎邸の南側である。初期には単に支店と呼んだ。

大橋館 今在家町 多気道郎 電338 (多気長大夫)

大03 宇治山田商工人名録」宇仁館分店 伊勢山田旅館(資) 豊川町 電105 支店が分店と呼ばれている。

大 1 1 三重県商工案内本編・付録」神風館 西田周吉 岩淵町? 電511

分店を神風館と呼んだ。住所も豊川町から現在と同様に岩淵町になっている。

電105は高千穂館支店で使用されるようになった。

昭初期 宇治山田市街図」神風館 岩淵町 電511

大橋館 多気末元 今在家町 電425 経営者が、多気道郎から末元に変更されている。

昭 0 2 商工名録」大橋館 (多気)末昌 今在家町 電425 経営者が、多気末元から末昌に変更されている。

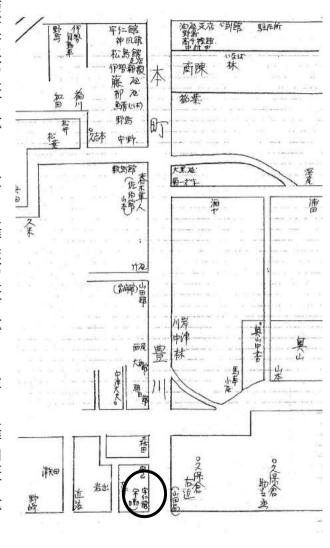
昭 0 5 伊勢参宮(案内)」宇仁館第二別館 電511 神風館が第二別館と改称された。

昭 1 1 伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」同別館大橋館 岩淵 電511

宇仁館別館 対泉閣 今在家町 電986

を 今在家町の大橋館を買収して、跡地を 宇仁館別館 大橋館」と称した。その後、終戦直前の空襲により灰燼に帰すまで、営業されたのではないだろうか? 対泉閣 今在家町 電986」とし、岩淵町の第二別館

昭 2 5 この豊川町28が誤記なのか、戦火を免れ大橋館が焼け残っていて 隔てた向かい、 今後の研究を待ちたい。 電話帳」字仁館本店 不動銀行があった場所 1996に柴田氏が川端氏遺稿を転記した地図によると、 町28 電12/20特長、西田 (豊川町)に 宇仁館」の記載があるので、この場所のことか? 本町186 一時的に 電252、岡本町332 電843 旧宇治山田郵便局の道路を になったものかは不明であり、



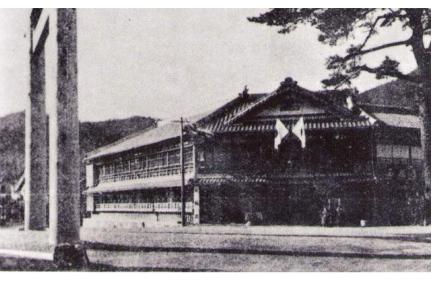
昭 3 2 昭29 伊勢商工要覧」)宇仁館本店 電話帳」字仁館 本町 電2121、 西田 西田 雄 本町 雄 旅館 電2121 本町 西田 雄 岡本町 電2843



宇仁館分店 (豊川 町 ↓神風館 (岩淵町?) ↓第二別館 (豊川町) ↓大橋館 (豊川町)

(2)







8. 宇仁館 別館 千秋楼 灵 與可楼)

の長男 與可楼は中岡楼とも言って、古くから高名な料理旅館であった。 となっている。 一雄に経営を託した。 昭和30年代までに、 一雄の長男 大正11年に、 正秀が引き継いだと思われる。 中岡助三郎から買収して、 現在、 同地は 西田周吉 駐車 場

広間を新設して、その必要に応ずる(後略)。 を調進せしに殊の外御意に叶い(中略)、明治18年に亘りて、 田あり。三日市大夫邸を御旅館に充てさせられし砌みぎり、御膳部御用を命ぜられ御思召に依り七五三のお料理 起し、神都屈指の料亭として、其の名をシン紳の間に号するに至れり。 年中岡家の養嗣子となり、 神都名家集の中岡助三郎の伝によると、飯南郡松坂町、 盛の域に進み、当主助三郎氏に至り、 ご、通称を中岡と云い、良かろうと号す。先主の代に及び三宅家の旧宅を>買収して家屋を増築せしより、倍々繁 明治12年養父退隠に依りその家督を相続す。 旧習を脱して最も開明的の料理法を選用せしより其の名声、 柿本利右衛門の五男にして、 更に家屋を増築し、、 先年、有栖川宮殿下神宮御参拝として御来 抑々、 同家は四代前の主料理店を開業 殊に多数の宴会に適すべき大 元治元同家に生れ、 慶応3

大03 宇治山田商工人名録」與可楼 中岡助三郎 旅館·料理 八日市場 電21長

大11 三重県商工案内」千秋楼 旅館料理 西田一雄 八日市場 電360長/515

昭 0 6 宇治山田商工案内」伊勢山田旅館(株) 千秋楼 料理兼旅館 八日市場 電360長/515

昭25 電話帳」千秋楼 八日市場 電360特長/515

昭29 電話帳」千秋楼 旅館 八日市場 電4820/4821

昭32 伊勢商工要覧」伊勢山田旅館 株 料理 西田正秀 八日市場

電4820

千秋楼は與可楼の玄関部分を取り除いて改築していることが判る。 (上)與可楼 (下)千秋楼





9 宇仁館 別荘 宮崎

宮崎文庫の火に重要書類を取出すとの事蹟があり、また、周吉の 年には伊勢郷土資料館が建っていたが、どのような経緯があったの 録は以下の通り。 経歴の中に、 いたと思われる。同地は古来より桜の名所として知られている。近 豊宮崎文庫」を取得していた可能性がある。同文庫についての記 前述したが、 わからない。 昭9初版 豊宮崎文庫を収蔵して」とあるので、貞吉の時代に 戦後、昭和25年前後までは西田家が管理して 伊勢度会人物誌」には、周吉の父、貞助が

宇治山田市街図」

電話番号簿 伊勢参宮之図 宇仁館営業案内」 三重県 下巻」宮崎文庫 宇仁館別荘 西田周吉 岡本町 岡本町 電 8 4 3 電 8 4 3

別荘 宮崎文庫 電 8 4 3

雄

岡本町

昭和11 昭 2 5 昭 1 0 かは、 昭 初 電話帳」西田

高千穂館本店と支店

- 明44? れなかった。 高千穂館本店は元、北村屋といい、北御門前の角地にあったが、神苑整備区域に入らなかったために、移転さ 別格信用 明治期までは、 旅館案内 神都十 北村甚蔵 大旅館の内」高千穂館本店 外宮前 (襲名してるようだ)幸福大夫 北村長太郎などの記載が見受けられる。 電151 山田駅前高千穂館 電150
- 大0 北村甚蔵から西村かつに代表者が変更されている。 宇治山田商工人名録」高千穂館本店 西村かつ 宮後 電151 高千穂館 西村かつ 本町 電150
- 大03 宇治山田商工人名録」 高千穂館本店 伊勢山田旅館 (資)宮後 電 1 5 1

高千穂館 伊勢山田旅館(資)西村かつ 本町電150

宇仁館系列の伊勢山田旅館 だろうか? 代表者が西田周吉であった時も宇仁館系列であるという表現はなかった。 (資)に経営権を譲渡したようだが、 西村 かつ は伊勢山 [田旅館 (資)に雇われたの 66

- 高千穂館支店 三重県商工案内本編·付録」高千穂館 山田駅前 電150 西田周吉 本町 電105長 高千穂館本店 外宮前 電151
- 昭 0 5 伊勢参宮(案内)」高千穂館 駅前と外宮前 館主 北村甚蔵 電105特長/151
- 昭25 $\vec{0}$ 電話番号簿 帳」高千穂館食堂 三重県 -巻」高千穂館 電1256 北村甚蔵 旅館食堂

1 8 3

Ġ

経営権を北村甚蔵が西田周吉より買い

戻したかっ

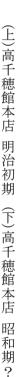
本

町

電1256

昭29 電話帳」高千穂館(資)飲食 井上宇助 本町 電3256

経営者が変更されている。駅前の高千穂館は記憶にある。 電話番号はこの頃にプラス2000された。





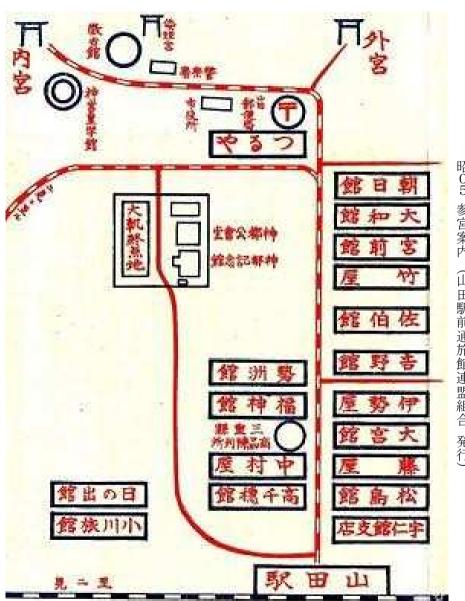
國勢 伊本日大 個人樣前宮外

UTAMURAYA HOTEL

DEKUMAYE









昭05 参宮案内 (山田駅前通旅館連盟組合 発行)

参考1. 伊勢朝報社



であった時期もあったようである。 伊勢朝報社」の社長であったと記されているが、周吉の父、貞吉が社長 同社に関しては、西田周吉の略歴には、明32に新聞を創刊した

明 3 2 伊勢朝報社」新聞を創刊

昭初期 昭 1 0 大03 その後、終戦まで営業されたのではないだろうか?この地区は終戦直前の 大01 宇治山田商工人名録」伊勢朝報社 電話番号簿 宇治山田商工人名録」伊勢朝報社 宇治山田市街図」伊勢朝報社 三重県 下巻」伊勢朝報社 岩淵町 代表者名なし 電102 西田貞助 岩淵町 電102/933 本町

神都印刷は、現在でも営業しているので、 のではないか? 電話番号簿」神都印刷 岩淵 町 伊勢朝報社はその場所にあった 電102

(写真)藤屋の右隣り (駅寄り 松嶋館の左隣り)にあった 伊勢朝報社

参考2.(株)志勢共同魚商会

豊宮崎文庫を収蔵して、(株)志勢共同魚商会を大正5年設立し社長となる、と周吉の略歴に掲載されているが、 大01 宇治山田商工人名録」に既にその名が見られる。大12 宇治山田市 業協同組合」が同じ電話番号を使用しているが、同業を継続していたと思われる、その詳細は調査していない。 〈の字に中 魚問屋」が見つけられるが、会社名のみ変更し、終戦まで継続したのではないか。戦後は、 (地図)」の同じ電話番号からは、 山田魚商

大01 宇治山田商工人名録」(株)志勢共同魚商会 魚問屋 河崎町 電324

大 1 2 宇治山田市 (地図) 八の字に中 魚問屋 河崎町 電324

昭 0 6 宇治山田商 工案内」伊勢山田旅館(株)への字に中 魚商会 魚市場河崎 町

電話番号簿 三重県 下巻」への字に中 魚商会 河崎町 電324長

昭25 電話帳」山田魚商業協同組合 河崎町 電324

の長男 の実態を把握するには至っていない。 始めてるように感じる。 昭32伊勢商 工要覧では、駅前本店と食堂がメインでチェーン旅館は既にない。千秋楼は 一雄 したのではないかと思う。ただ、本書冒頭の掲載した写真のごとく。宇仁館は、昭和30年代にやや低迷の様を見せ な打撃もあったけれども、 1934昭09、西田周吉が62歳で亡くなると、宇仁館旅館チェーンは長男 一雄に引き継がれた。戦火による大き 正秀に託されている。本町以外の記載住所は岡本町や岩淵町 (伊勢会館食堂グリル)が見られるが、 戦後の伊勢の観光業は高度成長期の旅行ブームや修学旅行に恩恵を受けて、大いに繁栄 岡本町

となり、 1956昭31、 栄華を誇った宇仁館も終焉を迎えたと考えられる。 一雄も60歳で亡くなるが、昭41伊勢商工名鑑では、終に、宇仁館の名称や西田姓の記載が皆無 72

年表

垂仁天皇の時代、 皇女倭姫が天照大神を多気郡佐々牟江に鎮座、忍比売が、かわらけを作り、神嘗祭を行う。

1743寛保03 山田師職名帳」 |志久保町に祓名 宇仁館大夫」、 師職名 宇仁館大夫師」の記載

1797寛政09 伊勢路見取絵図」に 宇仁館大夫」の記載なし

1830文政13 内宮館町町家之図」布谷佐大夫 宇仁館合家 平師職家」の記載

1861文久01 宇治郷之図」宇仁館大夫」の記載

1849嘉永2 西田貞助生まれる

1864元治-7慶応 山田師職銘監」に 宇仁館太郎大夫·石井源大夫」、師職名 宇仁館芳之助」の記載

1869明02 第55回式年遷宮 明治天皇神宮に初参拝 東京行幸途中陸路

1871明04 御師制度が廃止

1872明05 天皇陛下両宮参拝 (2回目)海路 宮崎文庫に宮崎郷学校開設 角屋和惣治 人長大夫邸を取得

1873明06 西田周吉 生まれる 大世古町 龍大夫邸にて博覧会開設角屋和惣治が人長大夫邸を取得

1875明08 西田米太郎 生まれる

1876明09 旅籠屋取締規則の県令発布

1879明12 | 旧師職総人名其他取調帳 | に | 平民 宇仁館たけ | の記載

1880明13 「新講社」広小路うに館太郎の案内 明治天皇神宮参拝 (3回目)陸路 龍大夫邸宿泊

1883明16 尾上町旅館十五楼が勅使斎館に定められる

1886明19 神苑会創設

1887明20 賓日館開館 皇大后御宿泊

1888明21 神苑開設のため、両宮付近の民家の撤 法工事

1889明22 初回町会議員選挙

1890明23 太田小三郎等参宮鉄道株式会社創立 三重県名所図会」三日市大夫次郎 旅館として営業

1893明26 三重県下商工人名録

1894明27 日清戦争開戦 神苑会より既成神苑 (内宮宇治橋内と外宮 一の鳥居前)を神宮〈献

- 1896明29 生まれる 宮川電気株式会社創立
- 1897明30 神宮の三祭典の時、忌物を神宮正殿に納める壺型土器を神宮に調進する場所が宇仁館のみとなる。 参宮鉄道が山田駅まで延伸 宮川電気が市内へ電力を供給開始 伊勢たより参宮案内

1田周吉 隣地に客室70余を有する洋風の建物を新築 自家発電による電灯を点

伊勢新聞商工登記公告に宇仁館代表者周吉、住所が記載

1899明32 伊勢朝報社 新聞創刊 修学旅行の鉄道団体割引始まる 1898明31

政治団体

神都公同会」貞助ら結成

- 900明33 山田駅前・外宮間の新道開通 五二会ホテル開業 龍大夫 (旅館) 大泉忠生が 取得
- 1901明34 貞助 私立宇治山田幼稚園発足 周吉 宇治山田市会議員当選(28歳) 神都名家集」

宇仁館は岡本町に本店を新築か?

- 1902明35 外宮北御門以西の神苑工事着工 2,3旅舎が撤去
- 1903明36 本町~二見間開通 関西参宮鉄道案内記」
- 1904明37 日露戦争開戦 岡本町に建設された宇仁館が焼失、のち朱壁の構造に建替え
- 1905明38 山田駅前~ 本町開通 駅前には旅館群が形成か?明治天皇 鉄道にて神宮参拝 (4回目)
- 1906明39 宇治山田市になる 内宮 (浦口)まで延伸開通 伊勢参宮案内記」宇仁館分店の記述
- 三日市大夫 三日市松心 三日市大夫次郎
- 1907明40 内宮·二見間開通 参宮鉄道国有化、長距離電話開通 五二会館は大日本ホテル 山 田支店に
- 三重県案内」藤屋(尾上町) 冨澤利七が経営
- 1908期41 遊郭貸座敷業が営業は古市22軒、 山田29軒、 神社10軒、この頃、三日市旅館 宇仁館系列に

- 1910明43 御幸道路開通 三日市旅館が南 (豊川 |町=神風館)北 (岩淵町=三日市旅館)に分断
- 1911明44 参宮鉄道鳥羽まで延伸開通。神苑会の土地建物 一切を神宮に献納し解散
- 伊勢案内図 別格信用旅館案内 神都十大旅館の内」大橋館 宇治橋際前
- 1912大0 宇治山田商 工人名録」 神風館は本店 龍いを、支店 大泉忠生、高千穂館 本店 西村かつ
- 伊勢朝報社 西田貞助 (株)志勢共同魚商会 魚問屋 河崎町
- 1913大02 西田貞助没 享年64歳 全国商工案内」
- 1914大03 第 一次世界大戦開戦 宇治山田商工人名録」 経営を伊勢山田旅 館合資会社とし、 神風館 本支店

を龍いを・大泉忠生から、 高千穂館本支店を西村かつ から買収して傘下に 與可楼 中岡助三郎

- 1915大04 三重県紳士録」西田周吉略歴記載
- 1916大05 西田周吉 豊宮崎文庫を収蔵して(株)志勢共同魚商会を設立

75

- 1920大09 924大13 周吉 宇治山田市市会議長に就任
- 1921大10 西田米太郎死亡 享年46歳
- 1922大11 三重県商工案内本編+付録」與可楼を中岡助三郎より買収し千秋楼と改称 神風館本支店廃業

伊勢屋旅館、吉野屋、 魚清旅館 (合) (本町) 八木儀 郎

- 1923大12 西田周吉 県会議員議長に就任
- 1924大13 西田正秀 生まれる
- 1927昭02 商工名録」この頃、藤屋は宇仁館別館藤屋となる (宇治山田市街 図) 日本の金融恐慌始まる
- 1929昭04 宇治山田市史」出版 世界恐慌始まる
- 1930昭05 神都博覧会開催 本・支店は北村甚平に譲 渡 昭和恐慌

1937昭12 日中戦争始まる

1936昭11

伊勢参宮之図」宇仁館案内図

1935昭10 1934昭09

西田周吉没 享年62歳

豊川町

神風館は大橋館に改称

1931昭06

(史料が見いだせない)

1941昭16 空襲で伊勢の中心市街地の半分余が焼失一終戦 太平洋戦争開戦

1945昭20

1950昭25 三重県電話番号簿」 宇仁館別荘 西田 雄 岡本町 高千穂館食堂を併設 山田魚商業協同組

1954昭29 三重県電話番号簿」高千穂館 井上宇助 この頃、電話番号は2000をプラス

1956昭31 西田一雄没 享年60歳

1957昭32 伊勢商工要覧」 西田正秀 八日市場

1966昭41 伊勢商工名鑑」宇仁館の名称や西田姓の記載が皆無

2004平16 西田正秀没 享年80歳

のお陰を以て知識の幅も広がり、同好の話を肴に一献、楽しむのも、残された人生の最高の喜びとなった。 議の丸岡正之氏、国際日本文学研究センター教授のジョン・ブリーン氏など多くの専門家と知り合い、ご指導ご鞭撻 氏、皇學館大学文学部の谷戸佑紀氏、伊勢河崎商人館事務局長の西城利夫氏、旧御師丸岡宗大夫邸保存再生会 氏、伊勢古市参宮街道資料館館長の世古富保氏、元皇學館大学の千枝大志氏、山田奉行所記念館館長の辻村修 一 にしえの伊勢」に発表している名古屋在住の山田修司氏や伊勢の版画を主に収集研究している津市在住の飯田良樹 明治時代の伊勢に興味を持ち、史実を知りたいと考えて10年余か?その間に、絵葉書収集を趣味として ブログ

う。最近では、まとめた事項の講演を依頼されることもあり、宦官の至りではあるが、 いるようにも思う。 く呑みたいだけではあるけれども、自分の活動が、郷土の将来に多少なりとも貢献できれば、この上ない喜びとなろ 活動をしていると、それに関心がある方と大いに知り合える様になり、それを肴に一献が、またまた進む。単に、楽し 化してきている郷土伊勢が、再び、賑やかさを取り戻すために何をすべきを考えるようにもなってきている。それらの 考えはさらに進化して、歴史を知ることは将来を知ることではないかとの確信を得るようになって、シャッター街と 少しは郷土に恩返しが出来て

なく、同時に調査していた 電話番号の推移」と合わせ、論じれば、 とめるきっかけとなった。今後の調査の 緯などを議論することが多い。そのためにその中核となった 宇仁館」を中心にまとめてみることにしたが、資料は少 このような中で、 伊勢の旅館に関しては、栄枯盛衰が激しく、 一助になれば幸いである。 新資料が発見される度に、あった場所の特定やら、 正確さを保持できるのではないかと考えたのがま

76

伊勢図書館に収蔵され、閲覧できる。研究結果は、ホームページ http://nfc.no.coocan.jp/index.htm でも公 著書、伊勢度会近世名軸図鑑、伊勢参宮近世名所図会、御師大研究などの自主製作本は三重県図書館や 勤務し、レコード、ビデオデイスク、DVD、記録ディスクなどの開発に携わり、退職後、技術コンサルタント会社を起業、 現在に至る。実家の掛軸を受け継いだことから、その調査を経て、伊勢の近代史を研究するに至った。 昭和23年伊勢市大世古町に生まれ、昭和47年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業後、日本ビクター株式会社

開している。

平成30年 2018年8月吉日発行

著者 兼 発行者 秋 田 耕 司

81

〒259-1206 神奈川県平塚市真田3・10・18

刷・製本 有限会社 NFC技 研

印

| 宇仁館物語 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 | 秋 |
| 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 |
| 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 | 耕 |
| 司 | 司 | 司 | 司 | 司 | 司 | 司 | 司 | 司 | 司 |